

※※※

平成26年度
議会報告会
会場別開催概要

※※※

開催会場	参加者数
桜ヶ岡中央会館	2人
コアかがやき	19人(5人)
コア鳥取	29人(17人)
阿寒町公民館	9人(0人)
音別町コミュニティセンター	4人(3人)
市議会議場(昼)	15人
市議会議場(夜)	12人
合 計	90人(42人)

※()は前年の人数

開催日時	平成 26 年 10 月 20 日（月） 18：00～18：40
開催場所	桜ヶ岡中央会館（大広間）
参加人数	2 人
出席議員	黒木 満議長 酒巻勝美議員（議会運営委員） 佐藤勝秋議員（総務文教常任委員） 畑中優周議員（経済建設常任委員長） 秋田慎一議員（民生福祉常任委員長） 草島守之議員（石炭対策特別委員） 三木 均議員（議会広報特別副委員長）
質疑応答の内容	問：新図書館整備の問題で道銀ビルの入居案に対してさまざま議論されているが、整備の方向性を聞きたい。 佐藤：現図書館は耐震基準を満たしておらず、早期整備に向け、検討委員会を設置し検討してきたところに市側から民間ビル入居案が示された。これまで行われた 1～2 回目の集中審査では、市側から示された試算をもとに審査してきたが、市民にとって良い形なのか、長く使う施設として相応しいのかなどの質問があり、3 回目の集中審査においては、議員からも P F I 方式や現地改修などを提案された。現図書館は耐震面で問題があるので長い時間をかけるわけにもいかないが、多くの皆さんが納得する形で結論を出していきたい。

開催日時	平成 26 年 10 月 21 日（火） 18：00～19：30
開催場所	コアかがやき（研修室兼学習室）
参加人数	19 人
出席議員	<p>月田光明副議長</p> <p>森 豊議員（議会運営委員）</p> <p>梅津則行議員（総務文教常任委員）</p> <p>続木敏博議員（経済建設常任委員）</p> <p>秋田慎一議員（民生福祉常任副委員長）</p> <p>松永征明議員（石炭対策特別委員長）</p> <p>鶴間秀典議員（議会広報特別委員）</p>
質疑応答の内容	<p>問：全国的な人口減少の流れは、釧路も同様か。</p> <p>秋田：全国と同様に、出産する世代の女性が減り、高齢化が進むという流れで進んでいる。</p> <hr/> <p>問：新図書館が民間ビルに入居するということのようにだが、駐車場はどのようになるのか。</p> <p>梅津：民間ビル入居は確定ではなく、市長から示されている方針である。現在審議中の総務文教常任委員会でも駐車場は大きな課題として捉えられており、場所や料金設定などについては現在議論している状況である。</p> <hr/> <p>問：図書館を北大通に移転ということだが、将来人口が減少することを考えるとじっくりこない。議会でも移転を前提として進めているのではないか。</p> <p>梅津：事業費の比較パターンとして市から 4 つの案が示されたが、議員からも別に 3 パターンの案を示した。これら全てのパターンを比較したところ、市長が提案した民間ビルへの入居は、他の整備手法と比較して財政的な優位性がないことがわかり、今後も検討が必要であるため、議会としては現在合意に至っていない。</p> <p>月田：市民がどんな機能を図書館に望むかをくみ取った上で、財政負担が軽くなる手法を追求すべきという立場から、委員会でも激しく議論している。人口減が進む釧路市において、子ども</p>

<p>たちに負担を残さず、市民の期待する図書館にするため、議会として慎重に議論していく。</p>
<p>問：図書館の構造も大事だと考えるので、今後の議論をお願いしたい。</p> <p>梅津：おっしゃるとおりで、内部構造はしっかり考えていく必要がある。新図書館整備市民検討委員会の検討内容を踏まえながら、今後市から提出される予定の素案をもって、そういった議論がされることになると思う。</p>
<p>問：大型クルーズ客船の受け入れに対して、耐震岸壁の水深をもっと深くするべきではなかったのか。</p> <p>続木：元々は耐震岸壁として、大規模災害発生時に物資等の輸送を行うことを目的としたものである。色々な目的で使う中で、クルーズ客船の寄港にも利用している。当初は、サン・プリンセス号のような7万トン級の大型客船の入港を想定していなかったという事情があった。同じ場所をさらに深く掘るというのは、新しく岸壁を整備するようなものであると聞いているが、釧路市が大型クルーズ客船を広く受け入れるまちになるように、他の場所の整備も視野に入れて考えていきたい。</p>
<p>問：北大通がみすぼらしく、観光に訪れた乗客を失望させている。図書館1つ建てたくらいで活性化になるとは思えず、仮に大きな客船が入るようになって、意味のないものになってしまわないかと心配している。</p> <p>続木：乗客がまちで買い物をしやすくするなどの対策を講じる必要があると考える。</p>
<p>問：釧路港を国際バルク戦略港湾として整備するということが、飼料を必要とする酪農が盛んな地域と釧路港とを結ぶ道路を、しっかりと整備する方が先ではないのか。</p> <p>続木：道路整備ももちろん大事であるし、バルク港に指定されたことも良かったと考えている。釧路港はパナマックス級の大型船を受け入れることができ、一度に大量の穀物飼料が陸揚げされる。これにより割安で飼料を買えるようになるので、地元の農家の体力づくりに寄与することができる。</p>

<p>市への 意見・要望</p>	<p>問：外環状道路の整備により、柳橋通を2車線から4車線に拡幅するという市の説明があった。その際に、ある程度の数の街路樹を運動公園へ移植するということがあったが、落ち葉の始末や倒木の心配があるので、予算がつき次第移植してほしい。また、外環状道路の降り口と市道との接続部分に信号機を設置してほしい。</p> <p>続木：経済建設常任委員会では、街路樹の移植や信号機に関する具体的な議論はされていない。ご意向を受け止め、委員会の中で市へ伝えていきたい。</p>
	<p>問：4車線になり交通量が増えることで、自動車の騒音や交通上の危険性を付近住民は懸念している。これらの対策を講じてほしい。また、落ち葉や危険木の対策として、街路樹の剪定をしてはどうか。</p> <p>続木：おっしゃることはもっともであり、貴重な意見として市に伝える。</p>
	<p>問：緑ヶ岡地区において、市道のでこぼこを直すよう市に要望してから、直るまでに3年間かかった。街路樹の落ち葉の清掃も市は動いてくれないのでこちらでやっているが、回収する袋の負担もある。道路維持や環境整備に関してどのように考えているのか。</p> <p>続木：災害等のため応急的に補修しなければならない道路もある中で、できるだけ早く道路補修をするよう市へ伝えていきたい。また、街路樹の件も対策を考えるように市へ伝える。</p> <p>秋田：落ち葉の問題を行政で全て解決することは難しい。袋については市と話をしていきたい。</p>

開催日時	平成 26 年 10 月 22 日（水）18：00～19：30
開催場所	コア鳥取（研修室兼学習室）
参加人数	29 人
出席議員	<p>月田光明副議長</p> <p>松尾和仁議員（議会運営委員）</p> <p>草島守之議員（総務文教常任委員）</p> <p>村上和繁議員（経済建設常任委員）</p> <p>大島 毅議員（民生福祉常任副委員長）</p> <p>土岐政人議員（石炭対策特別委員長）</p> <p>松橋尚文議員（議会広報特別委員長）</p>
質疑応答の内容	<p>問：9月議会で北電の電気料金再値上げに関する質問に対して、極めて遺憾であるとの答弁があったと報告を受けたが、その後の議論を聞きたい。</p> <p>村上：私が一般質問した内容である。この答弁を受けて、苫小牧市で市長として申し入れをしている例を取り上げて、行動をすべきではないかと質問した。また、議会としても、全会一致で北海道電力株式会社の電気料金値上げ等に関する意見書を可決し、国に提出している。</p> <p>問：議員や政党の看板が小学校の敷地や公園など公共の場に立てられている。市の担当課に聞くと、市民から苦情があるごとに議員等に連絡しているが、なかなか撤去に至らないとのことであった。撤去できない理由を聞きたい。</p> <p>村上：撤去に向けて動いているところであり、後援会や支部等にも話をしている。一部残っているものがあるならば、大変申し訳ない。</p> <p>問：クルーズ客船を呼び込むのであれば、免税店が必要だと思う。免税店の設置を推進していくべきでないか。</p> <p>村上：民間で免税店を増やすための研究や動きがあることは大変ありがたい。そうした動きは奨励したいし、行政としてサポートする努力をしてもらいたい。</p> <p>問：人口減少対策について、少子高齢化による自然減以外に、釧</p>

路市に入る人より出る人が多いという人口動態減が問題になっていると思う。人を離さないための方策と人口減少の要因について、各議員の考えを聞きたい。

草島：人口減少の要因の一つに雇用の減少があると考えている。若い人が働く場所の選択肢が限られており、雇用の拡大が必要である。そのためには地場産業の育成が重要であり、これまでの市の基幹産業に加え、農業に関する施策を打ち立て、雇用の創出を図るべきである。

村上：日本全体が人口減少社会であるので、子育て環境の整備や若い世代の低賃金解消等を国で行わなければ問題の解決は難しい。釧路市で言えば、水産、農業、石炭等の資源を活用した雇用を創出する施策が重要と考える。また、地元中小企業への支援に加え、阿寒、音別地区で移住施策を展開し、外から入ってくる若い人を増やす必要もあるのではないかと考えている。

大島：雇用の拡大はもちろんだが、安心して医療を受けられる環境づくりが必要であると考えている。

土岐：基幹産業が細ってきており、それに代わる産業が育っていないこと。また、情報技術の発展や交通インフラの整備等により、釧路にあった支店が営業所になり、その営業所もなくなって雇用の場が失われていることが人口減少の要因の一つであると思う。人口増に向け、長期滞在事業を実施し移住につなげる施策も必要と考える。

松橋：多くの高校生が釧路以外の大学、短期大学に進学し、そのまま都心部で就職している。基幹産業が厳しい状況にある中で、それを支えた高い工業技術を活用した新しい産業が少しずつ釧路に芽生えてきている。それらをバックアップする形で進めていくことが雇用拡大、人口流出を食い止めることにつながると考える。

松尾：支店、営業所の減少に加えて、札幌からの単身赴任者が圧倒的に多い実態がある。以前は家族で引っ越すこともあったが、こうしたことも人口減少の原因にあると考える。

月田：考え方の一つとして、人口規模だけでまちの魅力や満足度

を押し量るのではなく、人口減少する中でいかに住む人の満足度を高め、まちのコンパクト化を図っていくかという部分も考えなければいけない。

問：就職先がないとの話だが、水産や福祉の求人が多くある。栄養士の資格をとり水産関係に就職しようとしても、親が難色を示して止めさせるということもあり、釧路に就職先がないというのは実情に合っていないのではないか。

村上：就職のミスマッチの問題も含めて、さまざまな要因があると思う。実際に建設現場等の募集をしても人が来ないということも承知しているが、雇用の選択肢を増やしていくことも必要である。キャリア教育の取り組みや地元で資格を生かした仕事ができるようにしていかなければいけないと思っている。

問：基礎学力保障条例が制定されたが、その後の盛り上がり伝わってこない。反対した議員も条例が制定された以上、議会一丸となって取り組むべきと思うが、考えを聞きたい

村上：現在も反対の気持ちには変わらない。子どもの学力は大変重要であり、勉強をできる環境をしっかりとつくるのが重要であると考えている。そうした観点から教育問題に取り組んでいるところであり、決算委員会においては、学校図書の充実を図るべきと市長に質問した。

月田：この条例は、釧路の子どもたちが将来、就職してスキルアップをしながら働き、自らの人生を切り拓いていくためには基礎的な学力が必要であり、それを保障するのは我々大人の責任だという観点から制定したものである。釧路市の教育が劇的に改善したわけではないが、関係各所に前向きな動きが広がりつつある。学校の情報や家庭や地域に伝え、学校、家庭、地域の連携をより密接にしていく取り組みを始めている。

問：学校の課題を地域で考える場として学校運営協議会があるが、学校によっては実態に即した情報が提供されていない。補習の現場を見学した際、小学3年生で一桁の足し算ができない子を見つけ、学校に対応を求めたが、他にもそういう子がいるので特別扱いできないと言われた。そこで、学校を応援するつもり

	<p>で、釧路鳥取てらこやを地域で立ち上げて取り組んでいるが、学校は個人情報守秘義務があり、連携できないとのことであった。本気でいじめをなくし、学力を上げるためには、学校、地域、家庭の連携は必要であると思うが、本当に連携をする気があるのかと思う校長も少なからずいる。こうした実情に対する意見を聞きたい。</p> <p>松橋：まさに学校、地域、家庭の連携が重要になっている。鳥取てらこやが地域で勉強を教えるという活動が行われていることは非常に良い模範になると思う。ただ、鳥取てらこやに学校が参加していないのは問題である。学校ごとで難しい部分があるが、学校、地域、家庭のより良い関係づくりを進めていかなければならないと感じている。</p> <p>草島：教育現場でそのような実態があるという話は初めて認識した。担当委員会として、しっかり現状を認識し、適切な対応を取っていきたいと考えている。</p> <p>問：釧路市東京事務所では何をやっているか教えてほしい。</p> <p>草島：東京事務所の役割は、主に地元の課題を中央で処理することにある。予算の獲得や地元への企業誘致のための情報収集等を行っている。</p> <p>問：なかなか企業誘致ができていないが、どう考えているか。</p> <p>草島：市長も企業誘致の必要性は認識しており、釧路港の利用促進やクルーズ客船の誘致、観光関係など、必要に応じて市長自ら要請を行っている。</p>
<p>議会への要望</p>	<p>要望：阿寒を世界遺産にする取り組みをしているが、国道に議員のポスターが立てられている。議員の皆さん方にはしっかり襟を正して対応してもらいたい。</p> <p>要望：市立の小中学校で、教室が汚く、授業中に児童が歌を歌っている状況がある。言葉で注意するだけでなく教師が自ら実践して教えられていない現状があることを理解してほしい。また、図書の充実についてもただ予算を付けるだけではなく、いろいろ知恵を絞ってもらいたい。</p> <p>要望：バルク港湾に指定されたが、市が核となって6次産業化の</p>

	<p>取り組みを進めるべきである。また、バルク港を生かした企業誘致の動きも見えてこない。議員の人脈を活用して地元経済の情報を得て、地元企業のバックアップをしてもらいたい。</p>
<p>市への 要望・意見</p>	<p>問：鳥取南7丁目の墓地跡地の売却額が市場価格とかけはなれて高く利用されにくいと思う。こうした土地や、学校等に太陽光発電のパネルや風力発電を設置するなどして有効に活用してはどうか。また、福祉施設において、太陽光パネルの設置に関する補助があると聞いた。有用な補助制度があるならば、もっと周知をすべきでないか。</p> <p>草島：この土地は既に一部売却されているが、そのときの売却額との比較で、すぐに売価を下げるのは難しい状況にあり、その調整に苦慮している段階である。今後、売却が進むために、関係部署に調整をするよう伝えていきたい。</p> <p>大島：いろいろな制度に対する周知について積極的に取り組むよう、市に伝えたい。</p>

開催日時	平成 26 年 10 月 23 日（木） 18：00～19：30
開催場所	阿寒町公民館（視聴覚室）
参加人数	9 人
出席議員	<p>月田光明副議長</p> <p>高橋一彦議員（議会運営委員長）</p> <p>鶴間秀典議員（総務文教常任委員）</p> <p>松永征明議員（経済建設常任委員）</p> <p>松橋尚文議員（民生福祉常任副委員長）</p> <p>土岐政人議員（石炭対策特別委員長）</p> <p>石川明美議員（議会広報特別委員）</p>
質疑応答の内容	<p>問：阿寒インターチェンジは、国道との交差点が危険な形になろうとしている。その上、高速道路の影響から国道を複雑な線形に変えたことで、事故が多く起きており、ここにインターチェンジがつながれば、ますます事故が増えると思う。議会ではどのように捉えているか。</p> <p>松永：今、話を聞いて初めて危険性が分かったので、議会全体でも取り上げながら、改善について議論していきたい。</p> <p>問：人口減少問題について、合併以降、仕事がないため、若い人が定着せず、少子化が進むという悪循環が繰り返されている。加工や販売を全部含めた6次産業をおこしていくことで若い人の働き口が増えていくと思う。議会として、関連団体に目を向け、意見を拾って行政にぶつけていくということをしなければ、人口減少に歯止めはかからないのではないか。</p> <p>鶴間：人口減少対策はどういったものがあるかとの議会質問に対し、市長から農業等の一次産業を活用して雇用を創出することが人口減少対策になるという答弁があったが、実際に何をするのかという具体的な答弁は無かった。補足だが、行政では現在、涼しい釧路を利用した長期滞在を、民間と一緒に協議会も作って進めているが、この中で今後、定住を前面に打ち出して進めていきたいとの話があった。</p> <p>松永：6次産業の推進で若い人の働き手が増えるというのは、そ</p>

の通りであると考えている。これまでも地域のブランド化の議論の中で、行政側と農業や漁業の加工品を作り、全国に発信すべきではないかという話をしているが、9月定例会では、市から地域ブランド推進委員会との連携を図りながら、今後、早急に進めていきたいとの答弁があった。

問：人口減少対策の一つに子育て支援があると思うが、特に阿寒町に対する子育て支援の話し合いはあったか。

松橋：過去の委員会で、阿寒では個人の登録者が子どもを預かる事業があったが、預かる人がいなくなったことで、現在は乳幼児の預け先がなく、同様のシステムを作ってほしいという議論があった。

問：新図書館を北大通に移設して、人が集まるのか疑問に思う。市内には各コミュニティセンターに3カ所の分館があるが、通常の利用なら十分そこで間に合うのではないか。

鶴間：現在、市側から道銀ビルの間借り案が提案され、議論している。現在の市立図書館の蔵書を約1.5倍に増やすためのスペースの確保や図書館を拠点に分館の蔵書を入れ替えていく機能、郷土資料や歴史的なものを保存する文学館を併設するという機能を含めて、北大通に建てることで中心市街地を活性化しようというのが行政側からの提案だった。この案のほかに、PFIを利用する案、駅西地区の市有地に建てる案、今の図書館を補強する案などが議員から出されており、現在、市で試算しているところである。

高橋：色々なパターンが出てきた中で、いかに市民の負担を軽減するか、議会としてどうするかという話がこれから出てくると思う。

問：耐震岸壁ができ、その近辺も整備され、そこに大型船が出入りして海外や市外の人たちが来るのは良いことだと思っていたが、予想以上に大きな船で、水深が足りずに一部は西港の方へ回っているという報道があった。解決するためには、さらに水深を深くしなければならないが、そうすると耐震岸壁もやり直しになるのか。

松永：耐震岸壁に入港可能な船は耐震岸壁に、それよりも大きな船は西港にというすみ分けをしながら、今年度はクルーズ客船が25回入港している。

高橋：耐震岸壁は旅客船のために作ったわけではなく、災害時に海からの貨物を受け入れるために作られたものであり、平常時の活用として旅客船をM O Oの近くの耐震岸壁に入港させている。

問：釧路コールマインは太平洋炭鉱を引き継いだ後、経営努力し、地元の雇用にもつながっていることは間違いのないと思うが、経営内容を見ると、かなりの割合を研修事業が占めている。採炭で収益を上げていくのが本来の姿ではないか。

土岐：釧路コールマインの研修事業に対して、国から22億円を超えるお金が出ている。その内のいくらかに坑内使用料という、コールマインへの補助金的な位置づけで出されているものがあり、採算がなんとか成り立っているというのが実際のところである。釧路コールマインの努力で、こうしたものが無くても自立してやっていけるようになるのが理想ではあるが、現状ではそこまで至っていない。国のエネルギー政策に位置づけてもらい28年度以降の事業の発展的継続に向けて、国への要請行動を続けている。

高橋：坑内掘りにおいて、ガス爆発等、保安上のいろいろな問題がある中で、日本の技術は世界でもトップクラスである。釧路コールマインの研修事業でベトナム、中国の死亡事故が減っているという成果があり、研修国からもそうした技術が欲しいということで進められている。

問：庶路ダムは工業用水を送るために作ったが、釧白工業団地の一部がメガソーラーとなっており、工業用水を使用していない。本当にダムは必要だったのかと疑問に思うが、それに関する議論はあったか。

月田：釧白工業団地は企業を誘致し、庶路ダムから工業用水を供給するという計画である。市と白糠町はそれぞれ企業誘致に取り組んできたが、市側の土地は完売したものの、白糠町側で、

	<p>なかなか誘致の成果が上がらず、土地の有効利用を急ぎたいということから、白糠町の判断でメガソーラー発電所の誘致に至った。現在、市の水道水よりも水質が良いことを利用し、白糠町として水道水としての活用ができないかという議論が進んでいるということをご紹介したい。</p> <p>松橋：庶路ダムには、工業用水のほかに治水の役割もある。これまで、庶路川は大雨が降ると水位が上がって氾濫する可能性があるため、大雨のたびにポンプを設置していたが、庶路ダム完成後はその必要が無くなったという話も聞いている。</p> <p>問：原発の再稼働に多くの人が反対しているが、まずは安全に稼働できる原発は再稼働して、中長期的に減らしていくことを考えなければいけないと思う。原発をやめて、割高な自然エネルギー発電が増えれば、コストが電気料金に跳ね返ってくるのは当然である。その上で将来の電気をどう賄っていくのかという現実的な議論を、議会としてもしていく必要があるのではないか。</p> <p>高橋：全会派共通の認識の中で、電気料金値上げに関する個人や企業への影響、また、一方的な値上げではなく、北電に企業努力をしてもらいたいという話も含めて、意見書を出した。風力やソーラーでの発電は費用や効率の面で問題が残り、一概にはいいとは言えないと考える。</p>
<p>議会への 意見・要望</p>	<p>要望：阿寒インターチェンジの近くに釧路へ向かって橋が架かるが、そうになるとますます見通しが悪くなる。信号も設置しないという話も聞いており、さらに危険になると思うので、信号を設置するよう、公安委員会へ申し入れしようと思っている。実態を議会でも把握してほしい。</p> <p>問：釧路市議会の広報紙はあっさりしすぎているのではないか。もっと紙面を増やした方が、市民は議会を理解してくれるのではないか。</p> <p>松橋：ご指摘の通り、4面立てということで紙面に限りがある。特に議員の一般質問では、いくつか項目がある中で、一つの項目しか載せられないということがある。予算の関係上、現在、</p>

	<p>ページを増やすことはできない状況にあるが、その中でどうしていけるか委員会で考えていきたい。</p> <p>問：阿寒インターチェンジの整備に関し、高速道路をできるだけ直角に繋げなければならず、国道が今まで以上に急なS字カーブとなり、加えてその箇所は以前から路面凍結しやすい上に、路肩の草が伸び、鹿の通り道であることから非常に危険である。今後、国道の危険防止と維持管理が重要になるので、議会として開発局へ要望して、今まで以上に取り組んでほしい。</p> <p>松永：今いただいた意見を経済建設常任委員会の中で議論していきたい。</p> <p>要望：先ほどの釧路コールマインに関する質問への答弁は、肝心なことを言わないので分かりづらい。なぜ国内炭がだめになったかという、海外炭との価格差である。今のコールマインにそこを求めても無理であり、今の研修事業と合わせてやっているから続いているという答弁の方が分かりやすかったと思う。</p> <p>要望：今、道内の火力発電所はほとんど老朽化しているが、CO₂を何とかしようと国際的に言われている中で、原発をやめれば安定的に発電できるのは火力発電だけになる。そういう部分も含めて、良い案を出してほしい。</p>
市への意見・要望	<p>要望：人口減少対策について、国では地域創生に力を入れているが、黙って国がやってくるのを見ているのではなく、地域から行動していく必要があると思う。</p> <p>要望：阿寒インターチェンジに関連して、国道、道道につながる市道にインターチェンジへ誘導するような標識の整備が必要だと思う。</p> <p>要望：緑化整備について、数年前は樹木や低木の剪定がされていたが、予算の関係もあってかほとんど手つかずになっている。子どもたちが幼稚園や小学校に出入りするときに危ない場所があるので、剪定も交通安全上、非常に重要になってくると思う。</p> <p>要望：阿寒町では幼児が屋内で遊べる場所が非常に限られている。阿寒町子ども交流広場の先生に聞くと、施設を造っても保育士の人数が少なく、対応が難しいとのことであり、そうしたサー</p>

	<p>ビスが旧釧路市や阿寒湖にはあるのに阿寒町にないというのはさみしいものがある。</p> <p>松橋：今後の委員会の中で、また担当者ともいろいろな話をして、進めていきたいと思う。</p>
--	--

開催日時	平成 26 年 10 月 23 日（木）18：00～19：25
開催場所	音別町コミュニティセンター（研修室）
参加人数	4 人
出席議員	黒木 満議長 梅津則行議員（議会運営委員） 菅野 猛議員（総務文教常任委員長） 松尾和仁議員（経済建設常任委員） 戸田 悟議員（民生福祉常任委員） 秋田慎一議員（石炭対策特別委員） 金安潤子議員（広報特別委員）
質疑応答の内容	<p>問：災害時に備え、音別地区から高速道路へつながる道路の整備を市へ要望してきたが、現在はどのような動きになっているのか。</p> <p>菅野：市議会の一般質問の中で、今すぐの整備は無理だが、国や北海道へ要請していきたいと市長が答弁している。</p> <p>問：音別地区の人口減少対策として、何か地場産業を盛り上げていくことはできないか。議員の考えを聞きたい。</p> <p>菅野：地元の森林資源を生かした産業が望ましいと考える。</p> <p>松尾：人口流出に対しては安定した雇用、企業の誘致が有効だと言えらると思う。</p> <p>戸田：海上自衛隊を誘致することにより、防災施設整備に国費を使うことができ、災害時対応も可能になる。</p> <p>秋田：スポーツ大会や合宿の誘致、国道 38 号線の道路整備をすることで、音別内外の交流人口がふえるのではないかと。</p> <p>梅津：地域資源をどう生かすか、公立大学との共同研究をしてはどうか。島根県海士町の取り組み事例も参考になる。</p> <p>黒木：エミューやキクイモ、フキは将来性があると思う。林業も全国的に需要がある。これらの活用方法を考えていく。</p> <p>金安：地元団体によるフキ加工品の商品化も行われている。この取り組みを是非進めていただきたい。</p>

開催日時	平成 26 年 10 月 24 日（金） 13：30～15：15
開催場所	釧路市役所（議場）
参加人数	15 人
出席議員	黒木 満議長 高橋一彦議員（議会運営委員長） 金安潤子議員（総務文教常任副委員長） 大澤恵介議員（経済建設常任委員） 山口光信議員（民生福祉常任委員） 畑中優周議員（石炭対策特別委員） 大島 毅議員（広報特別委員）
質疑応答の内容	<p>問：新図書館整備の報告があったが、3回の集中審査の内容と、今後どのように進めていくのか聞きたい。</p> <p>金安：1回目、2回目の審査では、市から示された4つのパターンに対する費用やメリット、デメリットを議論していたが、3回目の審査で、議員側からさらに3つのパターンが提案され7つのパターンで議論しており、民間ビル入居案の優位性に疑問が生じてきている。市民が誇れる図書館とすべきであり、次世代への負担を考慮しながら、引き続き12月定例会で議論していく。</p> <p>問：現図書館の耐震化は起債で行うことが可能であり、2年後に全額交付税措置されるため、耐震化利用していくことは可能であると思う。</p> <p>金安：貴重なご意見としてお伺いし、今後活かしていきたい。</p> <p>問：各地区会館やコミュニティセンターに図書室がある。複合的施設として会合や会議ができる図書館を各地域に分散する発想もあるのではないか。</p> <p>金安：地区会館やコミュニティセンターの図書の充実に対する意見として受けとめる。</p> <p>問：平成27年度の石炭関係の予算は12月に国で決定するのか。</p> <p>畑中：例年12月に決定する。概算要求どおり予算が決まれば、単年度ではあるが昨年と同様の事業が実施できるものと認識し</p>

ている。今後も石炭の重要性を国に訴えていくが、市民の皆さんの後押しもお願いしたい。

問：新図書館民間ビル入居案は利用者にとって利用しづらい案だと思う。現図書館も借りたい書籍がワンフロアになく不便だが、さらに不便になると思う。上下階の移動にエレベーターを利用することが多くなるが、エレベーターは密室で、子どもを持つ親から不安の声を聞く。子ども達に負の遺産を残さないようにというが、一方で、子どもたちにどのような文化資産を残すのかということも課題である。

金安：貴重なご意見として受けとめる。

問：議会報告会を平日の18時開催とした理由を聞きたい。働く人は参加できないと思うが。

大島：議会報告会については、これまで日曜日に実施したこともあり、市民からの意見を聞き試行錯誤しながら開催している。働く人にも参加できるように開催曜日、時間等を検討していきたい。

問：旧日銀の跡地を市が買い取る動きがあるが、その理由を聞きたい。また、図書館に関して意見として述べるが、夕日と幣舞橋の両方が見渡せるすばらしい場所が現在の場所だと思う。

金安：旧日銀は、釧路のシンボルとして残したいという声がある。現在、コンクリート強度等の問題で取得については協議中である。

高橋：建物自体がまれな構造であり、再利用できないのかとの声がある。現在建物の調査をしているところである。

問：北大通りの街路灯はどこが管轄しているのか。夜景としてはきれいだが見すぎると感じており、節電の取り組みをしている中で疑問を感じる。

大澤：省エネ志向が進んでいるが、一方でイルミネーションが景観や観光振興にも寄与しているものとする。街路灯に関しては、各町内会、商店街等で管理されているが、市としても補助金を交付している立場から、LEDに交換する等の取り組みも行っており、市民からの要望を総合的に考えて検討している。

高橋：電気代の軽減に向け、水銀灯からナトリウム灯やLEDなどの電気代のかからない照明へ交換する方向で進めており、ご理解いただきたい。

問：全国で10万人以上の都市における人口の流出入調査において、釧路は人口の流出都市で全国8位であった。今後も減少に拍車がかかると言われているが、まちの将来の方向性を定めたプランはあるのか。

金安：人口減少の要因として、企業の流出や支社から営業所になり、撤退するという状況に加えて自然減もあると考える。現在、コンパクトシティ化や長期滞在事業の取り組みも行っており、少ない人口でも満足できるまちづくりが課題であると認識している。

高橋：学力の低下の問題や生活保護世帯数の増加、離婚率が高くシングルマザーが多いことや基幹産業の低迷もあって、就職問題が課題となっている。6次産業、観光などの推進にも取り組んでいるが、なかなか現状を打開する形になっていない。

問：10月14日に行った新図書館整備に係る集中審査の内容を聞きたい。傍聴した人の多くは、市の案は結論ありきであり、データの誤りなどもあって市に対して不信感を持っている。

高橋：当初、市側から中心市街地による複合施設で進めると補助金が出るので、早期整備をするにはこの方法しかないとの説明を受けた。しかし、それ以外の方法でも補助金の対象となることが分かり、現在7パターン案が出されている。ようやく比較検討でき、本格的な議論がはじまると考えている。

問：人口減少に向けたまちづくりを示した具体案は市民に示されているのか。

金安：ホームページでも確認できるが、市のマスタープランの中でコンパクトシティが示されている。また、新橋大通地区においてコンパクトシティに対する動きなども紹介されている。

議長：水産業の衰退、炭鉱の閉山により生活保護世帯が急増した。地元で子どもが働く場所が少なく、やむを得ず都市圏に流出するケースが増えており、産業の立て直しが重要である。特に、

釧路コールマインを失うと関連企業を含め 2000 人規模の職が失われることになりさらに人口減少が進むことになる。漁業の立て直しやバルク港湾整備で産業の活性化を図るなどしているが、一朝一夕では効果が出ない状況である。図書館整備では理事者側から 12 月定例会で委員会の意見を踏まえた形で基本的な考え方の素案を提案させてもらいたいとの話があった。

問：新図書館整備に関し、拙速に進めず時間をかけるべきであり、まずは耐震化を起債で行うことが先決である。賃貸の費用には、土地代、管理費、固定資産税などに利息をかけて算出されているので膨大な市民負担となると思うが、足寄町では公共施設の長期的賃貸の事例がある。また、要望だが、公立大学の図書館がすばらしいので参考にしてほしい。また、自己啓発機能などソフト面も考えてほしい。

高橋：図書館問題に関しては多くの傍聴があり大変注目されている。今の話も議論になる部分だと思う。なるべく市民負担を軽く、文化施設として相応しい形で進めていけるよう議論していくのでご理解いただきたい。

問：街路灯が間引きされているが、市街地の防犯対策として特に学校付近に関して配慮してほしい。

大澤：学校や公共施設の周辺で防犯上問題のないように検討したい。住宅街の街路灯については、町内会で管理されており、予算の問題もあるため、加入率向上に向けて我々からも協力をお願いしたい。

問：男女平等参画センターについて、女性が市役所で手続きすることが増えてきている。女性が抱えるさまざまな問題をワンストップで受け止めるのがセンターの役割だと考えるので検討してもらいたい。

金安：良いセンターにしていきたいと思っている。女性の悩みのワンストップ化は重要な役割だと考えているので、今後ともご意見をいただきたい。

<p>議会への 要望・意見</p>	<p>問：現図書館に関して、災害はいつ来るかわからないため、耐震化して、中身を充実させてきれいにしてもらいたい。新図書館整備に目が行き、現図書館がきちっと管理されていないので、議会でも監視してもらいたい。</p> <p>金安：現図書館についてももしっかり監視していきたい。</p>
<p>市への 要望・意見</p>	<p>問：中学校の制服が4万から5万円ほどする。低所得者層の方からの話では、買うのが大変であり、指定されたTシャツが1着しか買えず洗い替えがない生徒がいるのが実情である。制服の基準を見直してほしい。</p> <p>金安：制服の件は委員会においても話をしていきたい。</p>

開催日時	平成 26 年 10 月 24 日（金） 18：00～19：38
開催場所	釧路市役所（議場）
参加人数	12 人
出席議員	黒木 満議長 月田光明副議長 三木 均議員（議会運営委員） 宮田 団議員（総務文教常任委員） 上口智也議員（経済建設常任委員） 渡辺慶藏議員（民生福祉常任委員） 土岐政人議員（石炭対策特別委員長） 戸田 悟議員（議会広報特別委員）
質疑応答の内容	<p>問：新図書館整備に関して集中審査の内容を詳しく報告してほしい。</p> <p>宮田：これまで3回の集中審査を行っている。いくつかのパターンで比較検討しないと市民理解が得られず、議会でも議論できないとの議員からの指摘により、市側から4つのパターンを比較した資料が示され議論していた。さらに3回目の集中審査では議員側からも3つのパターンが提案されたため、12月定例会では7パターンで議論していくことになる。</p> <p>問：市の財政問題がある中で図書館機能を良くし、中心市街地活性化にもつながると聞き、市の提案を支持していたが不安に思えてきている。駅西地区での建設の話もあり得るのではとも感じている。</p> <p>宮田：当初いくつかのパターンをもとに市民の意見を聞きながら検討すると市側から聞いていたが、市長からは民間ビル入居案が経済的にも中心市街地活性化にも寄与し、補助金もこの案でなければ得られず、一方で市が建てた場合は全額市の負担であるとの報告を受けていた。しかし議論が進む中でさまざまなパターンでも整備が可能との意見が出てきている状況である。後年次負担もあり、慎重な姿勢で議論していきたい。</p>

問：現図書館は高台に位置しており眺望もよく、防災の観点からも良い立地であるが、この場所を捨ててビルに入居することは理解できない。現図書館を耐震化して、時間をかけて新図書館を整備すべきでないか。

戸田：意見としてお伺いし、今後も議会で細部にわたる議論をしていく。

問：新図書館整備に関して、PFI方式では、整備に4年～5年ほどかかるというが、具体的な案はあるのか。現図書館を耐震化しない状況でどれだけの期間がかかるのかが心配である。

宮田：空いている市有地を活用したPFIによる整備案については、まだ素材として提案されたものである。

戸田：PFIには地元企業を参入させるための準備や課題があり、このまま進めると地元企業が入れない可能性もある。さまざまなパターンの中で最良の形を求め議論中である。

問：政党・政治家の看板が公園に立っている。看板に関する設置期限などの規定も多くの議員が守っていないと思う。民有地に許可を取って立ててほしい。

戸田：選挙管理委員会に今の話を伝える。各議員に後援会があるので個々で整理することとなると思うのでご理解いただきたい。

問：駅裏に廃屋があるが、持ち主はすでに亡くなっている状況で、片付けたいが地域だけでは限界があり、行政の力を借りたい。

上口：空き家対策は全国的に大きな問題になっており、国会でも審議されている。先進事例を見ると条例化している自治体もあるが、公金により処理することが議論になっている。防災面においても重要な課題と認識しており、スピーディーに取り組んでいけるよう議会としても議論していきたい。

問：市立病院の改築について、駐車場が狭くスペースも少ない。改築によって、駐車台数は増えるのか。

渡辺：改築に伴って立体駐車場を建設しており、駐車台数については現状の台数を確保することになっている。

問：男女平等参画の理解が浸透しておらず、住民の意識改革が求められる。男女平等参画センターは2年間は直営とのことだが、行政側にセンターの運営や業務をしっかりとやってもらうよう議会からも都度呼びかけてもらいたい。

宮田：男女平等参画センターに関して、運營業務やスタッフ体制について質問したが、具体的な内容は検討中とのことである。このセンターには多くの幅広い機能が求められており、多くの市民に活用してもらうことで男女平等参画の意識が広まるよう議論していきたい。

問：ソーラーパネルの設置について、都市景観条例で制限している都市がある。景観の観点から釧路市も検討してはどうか。

上口：ソーラーパネルの景観については、個々によって見方、感じ方が異なると思っている。貴重な意見として受けとめ今後、勉強していきたい。

問：クルーズ客船誘致に関して、10月から免税制度が変わり免税対象が広がると聞いている。海外の観光客を相手にしているので、釧路の良いものを免税店で買ってもらうなど、行政としても免税店の設置に向けた環境をつくれなにか。

上口：大切な提言だと思う。免税店の設置には、第一義的には商店街、事業主が取り組むことになるが、行政も側面から応援するような体制づくりも大切だと思っているので、その体制のあり方について検討をしていきたい。

問：新図書館整備に関して、中心市街地に文化的な施設を集めることで、若い人も集まり活性化につながると思う。多くの経費がかかっても良いと思える施設を求めたい。

宮田：今の観点についても議論されている。市の案では新図書館の機能として若い人たち同士で勉強するスペースもある。多くの市民が活用でき、市民が一番良いと思える施設に向けて議論していきたい。

問：出席している議員の皆さんの新図書館整備に対する考え方を聞きたい。

戸田：まちづくりにおいて総合的に関わることであり、今後も議

	<p>論していく状況なので、個々のコメントは差し控えさせていただきたく思う。ご理解願いたい。</p>
議会への 意見・要望	<p>要望：この報告会は議員の生の声を聞くことができるよい機会であり、今後さらに参加者が増えるよう工夫してほしい。</p> <p>要望：中心市街地活性化に関し、旧丸井今井の新館を買い取って作り直すという話も聞いており、議員の皆さんもいろいろな情報を得て取り組んでもらいたい。また、太陽光パネルに関して、福祉施設は半分、サービス付高齢者住宅には全額補助されるとの話も聞いているので、そういった情報提供も必要と考える。</p> <p>問：指定管理者制度で施設の管理をしているが、市内業者に限らず安価な委託料で行っている。業者は人件費等かなり厳しい状況で受注しているようだが、果たしてそれで良いのかと疑問に思うので議会でも検証してほしい。</p> <p>戸田：業務委託も含めて同様の問題がある。意見として受けとめ、安定的に運営できるよう行政と協議していきたい。</p>
市への 意見・要望	<p>問：北電の電気料金値上げに関連して、メガソーラーの第2期工事申込分がストップしている。議会で何か情報を得ているか。</p> <p>上口：議会では連絡を受けていない。</p> <p>議長：今回の値上げについては、先般、北電側から議長へ経過があった。</p> <p>戸田：議会から行政に対してこの実態について伝える。</p> <p>問：新図書館が中心市街地活性化につながると言っているが北大通をきれいにすべきではないか。観光に力を入れるのであれば、もっと知恵を出して釧路のいいところを見せるべきだと思う。</p> <p>上口：北大通りの美観については、委員会の場で市に伝えていく。</p> <p>要望：これまで、公共施設を建てても駐車場の整備が後回しになるケースが目立つので、今後はその部分も見越して対応してほしい。</p> <p>問：軽自動車税に関して、車検が切れた車にも課税されるので、普通自動車のように車検が切れたら課税しないようになれば、職員の事務の軽減や収納率向上にもつながると思うが対応できないか。</p>

	戸田：条例に関する話であり、行政側にしっかり伝える。
--	----------------------------